

# めんたるへるす 京都

# 67

2024. 9. 1 発行

一般社団法人  
京都精神保健福祉協会  
〈事務局〉  
〒604-8804  
京都市中京区壬生坊城町 48-6  
京都社会福祉会館 2F  
一般社団法人 京都精神保健福祉協会  
TEL&FAX: 075-822-3051  
e-mail: k\_shf\_kyokai04@yahoo.co.jp  
<https://kyoto-mental.org/>

## 京都精神保健福祉協会 顧問就任の御挨拶

京都市保健福祉局長 並川 哲男  
(一社京都精神保健福祉協会 顧問)



この度、一般社団法人京都精神保健福祉協会の顧問に就任いたしました京都市保健福祉局長の並川哲男でございます。平素より本市の精神保健福祉行政の推進に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和37年の設立以来、「こころの健康づくり大会」や「こころのケア講演会」等の普及啓発活動を継続して実施してこられ、これらの活動を通じて、本市における精神障害のある方に対する理解促進や市民の皆様のごころの健康増進に、多大なる御貢献をいただいております。また、とりわけ本市との関係では、平成14年以降、夜間休日の精神科救急医療に関する医療・行政機関等との連絡調整に当たる窓口として、府市協調で設置する精神科救急情報センターの受託団体として、現在に至るまで、その重責をしっかりと担っていただいております。

これもひとえに、山下俊幸会長はじめとする協会の皆様方の多大な御尽力の賜物であり、深く感謝しております。

精神科救急情報センターにつきましては、現下の精神保健福祉を取り巻く情勢において、その役割の重要性に鑑み、令和6年度から委託料を増額し、相談体制の充実を図っております。

これにより、センターの運営がこれまで以上に円滑なものになることを切に願います。

本年4月から、改正後の精神保健及び精神障害者福祉に関する法律が本格施行されました。改正法では、障害者基本法の理念を踏まえ、精神障害のある方の権利擁護をさらに推進するべく、精神科病院における虐待の防止などが新たに規定されております。本市におきましても、改正の趣旨を踏まえ、これまでから毎年実施している精神科病院に対する実地による指導監督において、改正法の規定が適正に運用されているかも含めてしっかりと確認を行ってまいります。

今後とも、皆様と共に誰もが地域で安心して生活できるまちづくりを目指して、本市精神保健福祉施策の更なる推進に力を尽くしてまいります。引き続き、皆様の御理解と御協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

## 廣畑 弘所長（先生）のご逝去を悼んで

京都府山城北保健所長 重見 博子  
(京都精神保健福祉協会理事)

2 京都府中丹東保健所廣畑弘先生が2024年5月29日享年66歳でご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。先生は和歌山県でお生まれになり、1987年鳥取大学医学部をご卒業後、厚労省、京都府衛生部保健予防課、保健環境部健康対策室、大阪府高槻保健所、茨木保健所、枚方保健所で研鑽を積み、2008年から京都府保健行政職に入職されました。京都府では中丹西保健所、南丹保健所、中丹東保健所でご勤務されました。2020年中丹東保健所にご異動になった直後にコロナ感染症が蔓延しました。私は2020年に京都府保健行政に携わることとなり、赴任地が丹後保健所で中丹東保健所と同じ京都府北部地域でしたので、コロナ感染症への対策について、ご指導を受けることができました。感染症に関する知識だけでなく、行政の仕組みについてもお教えいただき有難い限りでした。昔からの友人のように接していただき、行政職に関して何もわからない私にはとても頼りになる先生でした。中丹東保健所は京都市から特急で1時間半です。ご家族が京都市内在住で廣畑先生は単身赴任をされていたのですが、日本酒を好まれており、夕刻のお酒は楽し

みだったようです。ご自身の健康管理にも留意され、マラソンにも参加されていたようです。中丹西保健所長からの相談にも丁寧に対応され、京都府北部地域の感染蔓延を最小にできたのは廣畑所長のご指導の賜物です。加えて京都府保健所長のリーダーとして活躍され、全国保健所長会理事も務められました。2021年から2年間は近畿保健所長会長も引き受けられて、多大な業務をしっかりと、誠実に遂行される姿勢は皆の規範となり、温厚な性格で多くの職員から慕われておられました。厚労省から京都府に出向された当時は、エイズ感染症対策も大きな課題でしたが、一緒に仕事をしていただいていた職員からは、「感染症について多くを学ぶことができ、職員を大切にしている優しい先生であった」と聞いております。また、ご家族思いで優しいご主人、お父様であったとのこと。京都府保健行政に真摯に取り組み、多くの職員を育成され、多大な貢献をされた廣畑先生を失ったことは悲しみに耐えられません。先生のごこれまでの御功業に敬意を表するとともに先生のご恩に深く感謝申し上げます。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

## 令和5年度精神保健懇話会 「コロナ禍の多職種協働における困難と取り組みについて」

京都府臨床心理士会 濱野 清志

去る令和6年3月7日に当会主催による令和5年度の精神保健懇話会「コロナ禍の多職種協働における困難と取り組みについて」がキャンパスプラザ京都にて対面で開催されました。副題に「それぞれの立場から報告する」とありますように、会では、当日お話しいただいた順に、医療法人三幸会第二北山病院看護師の内田英公氏、京都府立洛南病院看護師の山口延明氏、医

療法人三幸会生活サポートセンター・相談支援事業所精神保健福祉士の森田倫子氏、訪問看護ステーションユニットまちかど看護師の内谷浩一氏そして、行政から京都市保健福祉局医療衛生推進室保健師の中村育子氏と、さまざまな立ち位置からコロナ禍の中での精神科ケアの必要な方々への関わりを振り返っていただきました。

新型コロナウイルス感染症は令和5年5月に

5類に移行し、懇話会が開かれたのは、さらにそこから10か月ほどを経て世間的には何事もなかったかのような、元の生活が戻ってきたと感じている人が増えてきているような時期でした。しかし、精神科ケアの現場では、まだまだ集団感染で対応に追われることなども現状として生じていることであり、けっしてコロナ禍は過去のことになっているわけではありません。そういう時期に、あらためて精神科ケアの多様な現場でこの課題と向き合ってこられた方々のお話をお聞きできたことは、さまざまな病や課題を抱えた方々への支援に取り組む者にとって、新型コロナのような不測の感染症に見舞われたとき、いま一度、支援の原点に還って私たちに何ができるのかを真剣に問いかけられた時間であったと思います。

最初にお話しいただいた内田先生には、コロナ感染症対策と精神科ケアの両方を実践していくことで生まれる葛藤にどのように立ち向かっていくのか、というお話をさせていただきました。精神科ケアで最も大切なことは患者さんたちと支援者との信頼関係であることはいまでもありません。デリケートな心の働きに影響する精神科疾患の治療や療養にあたっては、安心でき、信頼できる関わりが不可欠であり、またこの関わりは日々の地道な関わりを延長に少しずつ築かれるものです。しかし、患者さんを含めすべての人の命を守るためにマストとして登場した新型コロナ感染症の感染対策は、この信頼関係に根底から揺さぶりをかけるものであったというのです。

生身の人間同士による温もりの伝わる触れあいは感染可能性を高めるものとして感染対策と真っ向から対立するものとなってしまいます。そのことによって、これまで築いてきた信頼関係が揺さぶられ、これをどのように回復していくことができるのか、この困難な道筋を模索することがコロナ禍での大きな課題であったというお話でした。

続いてお話しいただいた山口先生からも、衛生管理という側面と精神科ケアという側面の両立の難しさが語られました。精神科病棟での患者さんの感染を防ぐためのゾーニングは、患者さん自身が自分の身を守る安全な方法であると

理解して受けとめるにはまだまだ不安定な精神状態におられることもあり、その実施には相当な苦勞をなされたということがよく伝わりました。そして、やはりそういった衛生管理によって患者さんとの関わりが薄くなってしまい、本来の治療やケアに支障が出てしまう懸念もお話し下さいました。

次に、相談支援事業所の森田先生は、在宅の患者さんの福祉サービスの調整や相談事に直接出向いて聞き取りをするなど、PSWとして先のお二人とはまた異なった切り口から精神科ケアに携わっておられ、とりわけ患者さんのお住まいへの訪問にあたっての様々な困難を語ってくださいました。訪問先で防護服のようなものを急ごしらえで身にまとい、利用者さんの健康チェックを行って安全性を確保してから話を始めなければならない、といったことをお聞きすると、そこから安心して利用者さんの気持ちを聞き取り、適切な対応を進めていくことがいかに困難な作業であったのだろうかと思わされず。

森田先生のお話では、これまでの支援活動の中で利用者さんの健康状態を把握していたつもりではいたが、コロナ禍の中で利用者さんの身体的な基礎疾患の把握も重要であることを改めて思い知らされたという点も印象的なお話でした。

次いで、訪問看護の立場から内谷先生にお話しいただきました。利用者さんからコロナに感染する不安から訪問看護を断られることがあり、コロナ禍の元で利用者さんとの信頼関係を築くことの難しさがここでも大きな課題として浮き彫りになったように思います。訪問看護のスタッフもコロナに感染することはあるわけで、しかし、感染したことを利用者さんに伝え、一定期間を経てまた訪問するとしても、そのことが利用者さんとの関係に微妙な影を落とすことを感じるというお話は、非常にデリケートで丁寧な支援的かわりを求められる現場のリアルがよく伝わるお話でした。

最後にお話しいただいたのは、保健師として市の医療衛生にかかわる中村先生です。中村先生からは、コロナ禍での京都市の保健所の組織体制、パンデミックの経過と保健所の取り組み

や保健師業務について、そして今後の健康危機管理対策について、その全体像をお話いただきました。中村先生のお話は精神科ケアの現場に限らず、幅広い現場を想定したもので、市民の健康を守るという根本的な視点にたって、コロナ禍での経験とこれからの方向性を示唆されるものでした。

中村先生のお話しされたことで、筆者にとってもっとも印象的であったのは最後の質疑応答の中で、感染症に立ち向かって私たちの身を守るために一番大切なことは手洗いの励行である、というきわめて当たり前で、シンプルなお指摘をされたところでした。そして、この感染症対策の一番大切な行動が、精神科ケアでのさまざまな取り組みの困難さの根源を象徴するものでもあるとも感じられました。

ひとりひとりのいのちの大切さと心の大切さ、この2つはいずれも私たちにとって欠かすことができない重要なものです。そしてこの2つはふだんはほぼ同じものとしてみられているのではないかと思います。しかし、コロナ禍でのケ

アの現場での苦労は、この2つの大切さに比重のずれが生じているところから生まれているように思われます。

手洗いの励行はいのちを守るためにきわめて大切な行動です。一方で、心を大切にするためには、どうやって他者と手をつなぎ、信頼を築くかということが重要となります。手を洗うことと手をつなぐこと、この2つを象徴的に捉え、ともすれば同時には難しく、バラバラとなりやすい2つの行動を統合するより深く豊かな関わりを生み出していくことがこれからの私たちに求められていることなのではないでしょうか。

当日お話しいただいた内容は、もっと多様で、ここでまとめ切れていないものが多くあります。司会を務めさせていただいた者として、この報告が発表者の皆様がお話しされたこと十分にお伝えできていないことをお詫びしつつ、筆を置きます。

## 社会福祉法人京都府共同募金会

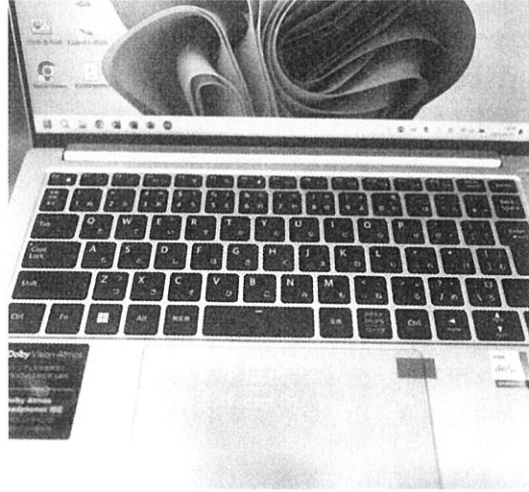
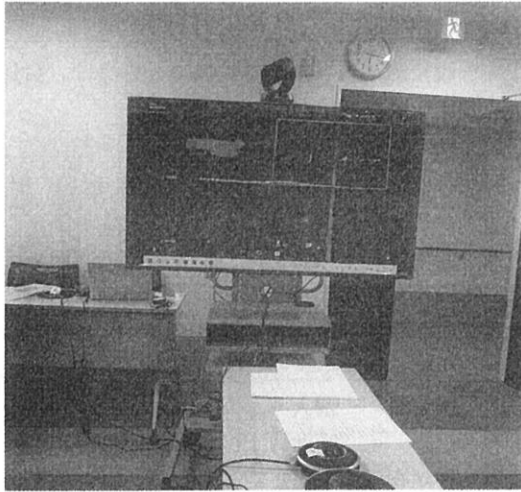
### 「つながりをたやさない社会づくり活動応援助成」

コロナ禍以降、本協会も ZOOM による会議や講演会等の開催に取り組んでまいりました。しかし、本協会には Web 会議用の機器はなく、ハイブリット形式等の開催には至りませんでした。

このようなことから、本協会理事会の承認のもと社会福祉法人京都府共同募金会が実施する「つながりをたやさない社会づくり活動応援助成」の令和4年度共同募金（5年実施事業）へ本協会の「普及啓発事業（精神保健対策事業）の充実を図るため」に Web 会議用機器類（マイク、スピーカー、Web カメラ、ディスプレイ等）の購入資金の助成を申請しました。その結果、幸いにも京都府共同募金会助成金を戴くことができ、以下の写真にある機器類を購入することができました。

今後、本協会が主催する「こころの健康づくり大会・京都」や「精神保健懇話会」、「こころのケア講演会」の開催などに活用することで、京都府・市民はもとより精神保健福祉分野で活動される皆様がより容易に参加くださり、京都府下の精神保健福祉の充実に貢献できるよう努めてまいります。

最後に、社会福祉法人京都府共同募金会さまの歴史ある「赤い羽根」募金活動にご協力くださいました皆さま方に篤く御礼申し上げますとともに、「赤い羽根」共同募金活動がますますご発展されることを願います。（事務局）



### こころの健康づくり大会京都・2023

日 時：令和5年11月24日（金） 18:30～20:30  
場 所：ハートピア京都（京都府立総合社会福祉会館）  
3F大会議室  
式 典：会長挨拶・来賓挨拶・精神保健功労者表彰  
講 演：「摂食障害からのリハビリーにとって大切なこと」  
講 師：NPO法人SEED きょうと理事長 水原 佑起 氏  
司 会：中村佳永子 氏（京都府精神保健福祉総合センター所長）

### 精神保健懇話会

日 時：令和6年3月7日（木） 19:00～20:30  
会 場：キャンパスプラザ京都4階第4講義室  
テーマ：「コロナ禍の多職種共働における困難と取り組みについてそれぞれの立場から報告する」  
パネリスト：内谷 浩一 氏（訪問看護ステーションユニネットまちかど / 看護師）  
中村 育子 氏（京都市保健福祉局医療衛生推進室 / 保健師）

内田 英公 氏（第二北山病院 / 看護師）  
森田 倫子 氏（三幸会生活サポートセンター・相談支援事業所 / 精神保健福祉士）  
山口 延明 氏（京都府立洛南病院 / 看護師）  
司 会：濱野 清志 氏（京都文教大学教授）

### 機関誌めんたるへるす京都

発 行 日： 令和6年3月1日  
事業内容： 「めんたるへるす京都66号」の発行

### 理事会・総会報告

令和6年6月26日（水）京都社会福祉会館会議室で対面とZOOMによる令和6年度第1回理事会を開催、令和5年度の事業報告、収支決算が承認されました。  
引き続き行われた総会では、新役員の選出（重任・交替）が行われ、また、理事会承認事項が承認されました。総会后、第2回理事会で山下俊幸理事が会長に選出されました。  
なお、令和5年度末における協会の財政状況は下記の通り。

## 役員選出 (重任・交替)

役員は下記の通り。

- 会長 山下 俊幸 氏 (京都府立洛南病院名誉院長)  
副会長 三木 秀樹 氏 (京都精神科病院協会会長)  
常務理事 中村佳永子 氏 (京都府精神保健福祉総合センター所長)  
常務理事 香月 晶 氏 (京都市こころの健康増進センター所長)  
理事 内田 英公 氏 (日本精神科看護協会京都府支部支部長)  
山本 幸博 氏 (京都精神保健福祉施設協議会副会長)  
北垣 政治 氏 (京都市保健福祉局障害保健福祉推進室社会参加推進課長)  
静 津由子 氏 (京都精神保健福祉推進家族会連合会会長)  
杉本 和子 氏 (風のリンケージ代表)  
山田 康之 氏 (京都府健康福祉部障害支援課精神・社会参加担当参事)  
知名 純子 氏 (京都精神保健福祉士協会会長)  
長澤 哲也 氏 (京都社会福祉士会会長)  
西村 幸秀 氏 (京都府医師会理事)  
藤本麻起子 氏 (京都府臨床心理士会会長)  
奥井 滋彦 氏 (京都精神神経科診療所協会理事)  
平野 慶治 氏 (日本てんかん協会)  
重見 博子 氏 (京都府保健所長会会長)  
森 志勇士 氏 (京都府作業療法士会理事)  
村井 俊哉 氏 (京都大学大学院医学研究科教授)  
吉岡 隆一 氏 (京都府立洛南病院院長)  
荒木 祐子 氏 (京都市中京区役所保健福祉センター健康福祉部担当部長)  
監事 杉本 二郎 氏 (杉本医院からすまメンタルクリニック院長)  
中井 敏宏 氏 (京都府社会福祉協議会常務理事)  
芳賀 正昭 氏 (京都市社会福祉協議会常務理事)

## 会員募集

一般社団法人京都精神保健福祉協会は、会員組織の民間団体です。

機関誌の発行、講師の紹介、講演会・懇話会・研修会の開催など、家族、育児、教育、保健、医療、福祉、職場、幼児から老年期までのこころの問題とケアについて、啓発活動を行っています。

会員の資格は問いません。入会を希望される方は、事務局までお問い合わせください。

<年会費>

- 正会員 個人 1人1カ年 3,000円  
団体 1口1カ年 10,000円
- 賛助会員 1人1カ年 2,000円
- 特別会員 1口1カ年 10,000円(3口以上)

<郵便振替>

00920-8-194405

一般社団法人 京都精神保健福祉協会

## 会費未納の会員のかたへ

令和6年度の会費が未納の会員のかたは、お納めいただくようお願い致します。

## 貸借対照表

(令和6年3月31日現在)

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産合計	5,535,072	1. 流動負債合計	4,143,102
2. 固定資産合計	5,087,156	III 正味財産	6,479,126
資産合計	10,622,228	負債及び正味財産合計	10,622,228



## 錦坊城で

本協会事務局は、4月下旬、壬生坊城町に落成した京都市社会福祉会館の2階第5貸事務室へ無事、転居することができた。京都府・市のご理解とご尽力に感謝したい。この地は遠いむかしの平安前期ごろの臣籍降下した親王邸宅の跡かとされている。もっとも京都の歴史は長く、街中は何処を掘り下げてその歴史の痕跡があらわれる。それらは有名・無名にかかわらず様々なひとの営みがあった痕跡である。本協会もこの営みに深く刻まれる活動となるようお願いしたい。

